

大学等名 九州大学  
テーマ名 テーマ6：ITを活用した実践的遠隔教育（e-Learning）  
取組名称 WBT（Web Based Training）による医療系統合教育  
取組学部等 医療系学部連携（医学部、歯学部、薬学部、附属病院、他）  
取組担当者 吉田素文  
取組期間 平成16年度～平成18年度  
Web サイト <http://www.medu.kyushu-u.ac.jp/gp/index.html>

#### 取組の概要

本取組においては、e-Learning 導入の必要性かつ教育的効果が最も高い医療系教育において、統合的な e-Learning システムを構築することによって、より良き医療人を育成することが目的である。全国で唯一の本学「医療系統合教育研究センター」を中心に医学部・歯学部・薬学部・附属病院が教育コンテンツを協同で開発・提供し、附属図書館が提供された教育コンテンツの権利関係およびメタデータ付与に関する調整を行い、情報基盤センターの e-Learning システムにより教育コンテンツを e-Learning コースとして展開した。本取組によって、医療系教育 e-Learning コースを本学の医療系学部教育および大学院教育に活用し、教育効果等に関する追跡データを集積するとともに、将来的には、教育効果等に関する分析結果や教育コンテンツなどを公開することにより、国内での医療教育のみならず、アジアや欧米における医療教育などへの貢献も視野に入れながら、取組を進めた。

#### 実施の経緯・過程

平成16年度は、体制を整備し、コンテンツ作成を開始し、およびすでにWBTを用いていた科目を継続的あるいは発展的に実施した。具体的には、事業担当者会議の開催、教室や設備などの物的整備、要員雇用、組織設置、WBT講習会などの人的整備、学内外への趣旨説明、発表、科目に使用するコンテンツの作成、WBTを用いたコースの継続・発展などを実施した。

平成17年度は、初年度に引き続き、設備・備品の購入、人材の確保、学内組織の構築、規則整備などの実施体制を整備することに重点を置き取組の推進を図るとともに、教育コンテンツの作成及び蓄積を行い、e-Learning コースを作成し、授業などで実践利用した。また、作成したコースのコンテンツは将来的な公開を目指して、権利処理、メタデータ作成、コンテンツの蓄積等を附属図書館で行った。さらに、本取組の評価については、様々な学会やシンポジウム等で紹介し、学外の関係者らと情報交換を行うとともに、対外的な評価を得る手段として意見交換を行った。学内では、学生による授業評価や本取組に対するアンケートのほか教員による学習効果の分析を継続して実施した。

平成18年度は、1年目、2年目に引き続き、設備・備品の購入、人材の確保を計り、実施体制を整備等、取組の推進を図るだけでなく、教育コンテンツの充実を行い、授業などで活用・利用した。さらに、本取組の集大成として、広く学内・学外に呼びかけて「現代GPシンポジウム」を開催した。また、「自己点検評価」を行うとともに「外部評価」を受け、その結果を今後の事業に生かしていくことにした。その他、「取組成果報告書」を作成し、全国の大学・高等専門学校及び全国の現代GP担当者などに送付した。

#### 目的に対する成果、人材養成面での達成度

病院地区キャンパスの学部をこえた e-Learning による医療系統合教育を実施し、学生の自己学習環境を提供し、さらに地域医療者の生涯学習環境（リカレント教育）の整備までも目指した本取組は

外部評価委員会からも現代 GP の目的に合致し、学生の能力の向上も明らかにされており、3年間で十分な実績が上がっているものとして評価された。また、成果を積極的に学会や関係団体に報告し、第3回日本 e-Learning 大賞を受賞したことは高く評価された。

#### 自大学の教育改革への影響、他大学等への波及効果、地域社会等への波及効果

医療系各学部が e-Learning の活用を開始するとともに、他学部の学生が履修する全学教育への波及効果も見られた。また、全学的な e-Learning の経年活用状況を見ると、アクセス数、コース開設数とともに、本取組開始後に医療系各学部が飛躍的に伸びており、それに応じるように他の学部でも活用度の伸びが見られた。広報活動については、公開シンポジウムを2回開催し、周辺大学の教職員が多数参加した他、ウェブサイトの公開、各領域の学会、フォーラム等への発表を行った。

病院を中心としたリカレント教育においても、地域の医療従事者を対象として、すでに数テーマを公開講座や講演会等の形式で実施し、毎回多くの参加者を集めた。

#### 学生等の評価

本取組によって、学生は各自で自主的に、Web 上に掲載されている授業科目のシラバスを確認して授業のための準備学習を進めるようになったほか、e-Learning を用いた豊富な画像や映像資料によるオリジナル教材を使って、学生は授業の予習・復習を行った。

さらには、国家試験の問題をベースとし、授業との関連について解説を付した独自の教材で学習を行った取組なども学生から好評である。

また、医学部医学科では、独自に開発した専門教育用の教材が、オンデマンドで学生に提供されており、病棟での臨床実習の準備教育として効果をあげた。

#### 学外からの評価

今回、国が補助事業の目的として掲げ、本取組の選定理由として挙げられている医学教育の現代的ニーズ、すなわち、医学学生に対する自宅学習、遠隔学習、医療従事者の生涯学習、医療教育のための統合的な e-Learning システムの構築に、本学では積極的に取り組み、医療系の全ての学部において、e-Learning コースを開設し、独自の教育コンテンツ開発に取り組んだ。また、学生や地域医療従事者等によるアンケート結果からは、取組について教育効果及び社会的効果が上がったことが確認でき、他の大学や情報通信関連の教育関係者等を交えたシンポジウムや情報交換会においても、本取組における e-Learning 教育の独創性や有効性について一定の評価を得た。

さらに特記すれば、本取組を基盤とした医学部保健学科の教育コンテンツが、e-Learning WORLD 2006 実行委員会（実行委員長 電気通信大学大学院 岡本敏雄教授）並びに日本工業新聞社主催による「日本 e-Learning 大賞（JAPAN e-Learning AWARDS）」において、「文部科学大臣賞」を受賞した。これは、「看護学教育における IT 教材の開発と活用 「間違い探し」から「お手本型」による看護技術教材」というテーマで本取組の中の一部の教育コンテンツを題材に応募したもので、審査委員会からは、「看護活動の題材で、動画を用いた極めて丁寧な e-Learning コンテンツ作成の視点を提供しており、特に長年の教育経験を通して、「間違い探し」、「お手本型」というシナリオ・パターンを準備し、臨場感ある現場の映像をベースに教育効果の高いコンテンツが開発されている。コンテンツ作りの新規性、品質の保証がなされているといえる。」とのコメントを得、公の場で本取組の成果が評価された。

#### 取組支援期間終了後の展開

外部評価委員会より「取組がさらに発展するための提言」として指摘を受けた以下の事項を、よき

医療人育成のために、これからも継続して取り組んで行く。

現代 GP 選定期間後も本取組が継続的に実施できる体制を九州大学として整える。

本取組の成果を医療系だけではなく、情報関係の学会・学会誌に発表し、本取組の特性を広く公開する。

国家試験問題練習のシステムに大学独自の解説をつけ、さらなる学習環境整備を行う。

e-Learning 教材を活用する科目数を増やす必要がある。カリキュラム全体の中でどの学習内容が e-Learning に適しているのか、その特性にあった教材作成に学部を挙げて取組む体制を作る。

学生にこのシステムとカリキュラムの関係を周知徹底し、学生がこのシステムの改善について積極的に提案する環境を作る。

学習者の学習履歴を分析することで学習困難を持つ学生を早期発見し、アドバイザー制度など適切な履修指導に活用する方法を検討する。

学外で行う地域医療の実習や卒後研修にも本取組の教材が使用できるよう遠隔教育のシステム上の改善を行う。

地域医療者へのリカレント教育は、公開講座のインターネット配信およびコンテンツ作成の段階にとどまっている。e-Learning 用いたリカレント教育分野での拡大を図る。

本件お問合せ先

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学医系学部等事務部学務課

Phone: 092-642-6532 Fax: 092-642-6545

E-mail: [ijgsien@jimu.kyushu-u.ac.jp](mailto:ijgsien@jimu.kyushu-u.ac.jp)